

Foreword

巻頭言

自動車計測分野のソリューション



長野 隆史

Takashi Nagano



HORIBA Europe GmbH
President

近年、自動車の研究開発試験分野において要求されているものは、エンジン・駆動系・車両全般にわたる統合試験システムと、それらをグローバルに供給しサポートできる体制である。このような市場要求に応えるため、自動車排ガス計測技術の強みを生かしつつ、HORIBAは1990年代より長期戦略の一環として、英国Ricardo社との関係強化を図ってきた。2001年には、エンジン試験を中心とする統合オートメーションソフトウェアを共同開発するために、SRH Systems社¹⁾に参画した。さらに2005年10月には、Carl Schenck社の自動車計測機器事業を買収した。これにより、SRH Systems社で開発するソフトウェアに加え、統合システムに必要な自動車計測機器のハードウェア技術もHORIBAグループ内に取り込むこととなった。結果として、自動車排ガス計測中心であった従来の事業展開の枠を超えて、自動車の研究開発試験全般に対して広くソリューションを提供できる環境が整った。もちろんこれらの活動は、ガス分析計に始まり、サンプリング装置、シャシダイナモメータ、オートメーションシステムへと過去40年間にわたって事業拡大してきたHORIBA自動車計測部門の事業路線の延長線上にある。そしてこの事業路線は、“お客様にソリューションを提供する”という一貫したポリシーに裏打ちされたものである。

今日の自動車産業を取り巻く環境には、キーとなるテーマがいくつかある。その一つが環境負荷の軽減という大きなテーマであり、この30年間、年ごとに強化される排ガス規制への適合が図られてきた。排ガス規制への適合は、現在でも自動

車開発における必須のテーマである。加えて近年では、地球温暖化防止に向けたCO₂排出抑制要求の高まりによって、燃費改善もより大きなウェイトを占めるようになった。燃費改善が求められる背景には、環境問題以外にもエネルギー問題や燃料代の高騰など、多くの要因が複雑に絡んでいる。この重要テーマに対応するため、内燃機関の更なる改良をはじめ、排ガス後処理装置の高度化、代替燃料への対応、ハイブリッド車などの先進パワートレインの開発といった非常に高度で複雑な研究開発が必須となっている。研究開発過程で非常に重要な位置を占める試験・実験についても、単にボリュームが増加しているだけではなく内容そのものが以前とは比較にならないほど複雑化している。使用される試験装置のハードウェアとソフトウェアもより高度化し、さらにシステムとして統合されたものが要求されている。同時に、そのような設備の導入が投資回収の側面から見てコスト的に見合うことも重要な条件となっている。

本誌では、Carl Schenck社の自動車部門の買収により、HORIBAのラインナップに新たに加わったメカトロニクス製品群(エンジン試験、駆動系試験、車両試験、ブレーキ試験、風洞天秤)と、それらを統合的にシステム化するSTARSテストオートメーションシステムを中心に紹介している。我々の製品戦略は、コア製品である排ガス計測製品とこれらのメカトロニクス製品とを、自動車排ガス試験システムVETSとSTARSの2つのオートメーションシステムを柱にシステム化し、高度なソリューションを提供することにある。そのために、自動車産業を取り巻く動向をグローバルに注視するとともに、お客様一人一人の要求に真摯に耳を傾ける姿勢を持ち続けていきたい。

*1: SRH Systems社とは、Schenck, Ricardo, HORIBAにより設立されたジョイントベンチャー。
HORIBAによるSchenck自動車計測部門の買収後は、RicardoとHORIBAの2社合弁事業となっている。